

夢窓幼稚園通信第12号

2026年5月29日

先日バスの先生たちが、デッキの上の日除けを備え付ける準備をしていると、そのネットの女隔を引っ張る長いロープの内の一本を見つけた子が、その先をつかむと走り出して部屋の奥に向かって走り出しました。

あらら... 実に楽しそうですが、他の子が引っかかって脚を取られたりしたら危ないので、すぐに止めて元に戻してもらいました。

その後別の子が、また別の時間にロープを引こうとしたので、長いロープやひもは引っ張りたくなるものなのかもしれません。そうだとするなら「綱引き」が運動会の種目でずっと続いているのもうなすけます。

寺繰り寄せたくなるのでしょうか？ 長いひもの先に何かあるのか知りたいからなののでしょうか？ 以前毛糸の玉を投げてはまたぐるぐる巻き、またもう一度〜とくり返し遊んでいた子がいました。

「糸口」というくらいですから、そこからつながるミラクルワールドが子どもたちに呼びかけ誘っているのかもしれませんが。

子どもの頃「余計なことをして、」「どうでもいいことを、」「在様もないことばかり...」と、よく大人にしかられたり呆れられたりした覚えがあります。大人は「役に立つこと」「必要なこと」「意味のあること」...が好きみたいです。もちろんそれらは大切なことに違いありませんが、どうでもいいこともないとどうもつまらない気がします。

推し計れる範囲での役に立つことより、もしかしたら余計なこと、しょうもないこと...が、今の価値を超えたり、今忘れ去られてしまった黄金伝説のような真理である深い世界とつながる可能性があるのかもしれません。

6月 雨の季節を迎えます。

小さかった頃 降り続く雨を見ながら、落ちる雨が葉っぱや地面に触れて生まれる音を聞きながら、夢を見、イメージの翼を広げわくわく時を過ごしたことを思い出します。

小さくして壮大な子どもたちのそのような静かな時間を傍らで感じられる大人でありたい！と、あらためて思います。

そして 余計で どうでもいい時間を、こういう時代だからこそ大切にしたいものです。

園長 升光 泰雄